

24. 熊本大学イノベーション推進機構改善計画書

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
研究	（法人評価までに改善する計画） ・他部局と連携して研究活動を実施している教員の研究活動を活発化するため、各自の研究スペースと環境の確保を行う	他部局の協力の下、連携する研究室に研究スペースを提供いただき研究活動を実施している。	他部局の協力の下、連携する研究室に研究スペースを提供いただき研究活動を実施している。
	（2年間で改善する計画） ・研究活動を実施していない教員においては、KICO職務を十分に実施した上で各自の専門と関連する学内研究活動や研究プロジェクト等への参画を行う	各自の専門性に基づき、他部局の研究者へ協力を行っている。今後はより主体的な研究活動を目指す。	各自の専門性に基づき、他部局の研究者へ協力を行っている。今後もより主体的な研究活動を目指す。
	（次の組織評価までに改善する計画） ・各教員の専門性や他部局との連携を活かし、科研費等の外部資金獲得を目指し、積極的に申請を行うと同時に、筆頭論文の執筆数を増加する。	科研費への申請を行っている。また、論文・専門書の執筆を進めている。	科研費への申請を行っている。また、論文・専門書の執筆を進めている。
社会貢献	（法人評価までに改善する計画） ・地域企業等との連携強化を行うため、その方針を策定する ・技術相談の制度化のための調査を行う	くまもと地方産業創生センターを中心に、地域企業との連携活動を実施している。28年度前半までに、地域企業との連携方針を策定する。技術相談の制度化に関して、他大学の情報を収集している。	くまもと地方産業創生センターを中心に、地域企業との連携活動を実施している。28年度前半までに、地域企業との連携方針を策定した。技術相談の制度化に関して、他大学（2校）と公開情報から調査を行った。29年度中に制度の策定を行う。
	（2年間で改善する計画） ・新たな産学連携あるいは技術紹介にかかわる展示会を調査し、出展を行う。 ・技術相談制度を構築するため、規則策定を行う	新たに2つの展示会への出展を行った。効果を見極めつつ、さらに調査を行う。	新たな展示会への出展を予定していたが、予算面と震災に伴う出展依頼の課題があり、今年度の新規展示会への出展は見送り、従来と同程度の出展を行った。効果を見極めつつ、さらに調査を行う。
	（次の組織評価までに改善する計画） ・技術相談制度を運用し、問題点等を改善する ・産学連携関連展示会へ出展を活性化するため研究者を支援する制度を策定し、実施する ・技術相談制度を内外にアピールし、企業からの技術相談を受け入れ、産学連携に繋げる	技術相談制度の予備的な調査を進めている。	技術相談制度の調査を進めている。29年度中に制度の策定を行う。
国際化	（法人評価までに改善する計画） ・大学単独発明等の外国出願等に際し、JSTの知的財産戦略センターの大学等への知財支援制度等の利活用を含め、学内方針の再検討を行う	JSTの支援制度の根本的な変更に対応するための方法（ルール・資金）の検討を行っている。	JSTの支援制度・状況が年度ごとに変化するため、年度ごとに部局内で方針を定めることとした。
	（2年間で改善する計画） ・新たに策定した大学単独発明等の外国出願等に際する方針に基づき、海外特許の活用を行うため、国際的な展示会への出展等による海外企業への大学特許およびシーズ技術のアピールを行う	学内シーズ技術の出展に適した海外展示会の検討を進めている。	海外展示会のための出張および参加費用支出が困難であるため、直接の出展ではなく、エージェントに委託し海外への営業活動を行っている。
	（次の組織評価までに改善する計画） ・大学負担による保有海外特許の精査を行う ・エージェント等を活用し海外企業へのコンタクトを試み、国際産学連携の業務の効率化と向上を図る	学内知財審査委員会にて海外特許の有用性を審議し、精査を実施中。エージェント等の活用に関して、調査、検討中。	学内知財審査委員会にて海外特許の有用性を審議し、精査を実施中。予算縮小によりエージェントとの契約金額も縮小され、活動範囲が制限されている。効率的な活用方法を検討中。
その他 （教育研究支援）	（法人評価までに改善する計画） ・教員およびスタッフの能力向上と業務効率化のため、外部で開催される関連のセミナーへの参加や各専門分野講師招聘し、学内セミナーを実施する ・国際産学連携サテライトオフィスの実績と現状調査を行う	学内でのセミナーを実施した。今後も定期的を実施し、スキル向上を図る。 28年度中、過去の実績を含め、国際産学連携サテライトオフィスの状況調査を実施する。	学内でのセミナーを実施した。今後も定期的を実施し、スキル向上を図る。 28年度末までに過去の実績を含め、国際産学連携サテライトオフィスの状況調査を実施する。
	（2年間で改善する計画） ・スタッフの能力向上と業務効率化のため、知財検定等の資格取得の支援と推進を図る ・知財や共同研究情報を一括管理する情報管理システムの構築のための調査・設計を行う	スキルアップに伴い、取得する資格と対象者の選定を実施する。今後、情報管理システムについての仕様を策定するための情報収集を行う。	スキルアップに伴い、取得する資格と対象者の選定を実施する。今後、情報管理システムについての仕様を策定するための情報収集・基礎設計を行う。
	（次の組織評価までに改善する計画） ・資格習得スタッフおよびセミナー参加スタッフによる他スタッフへのコーチングを定期的に行う ・知財や共同研究情報を一括管理する情報管理システムを構築し、運用する ・海外特許活用や国際産学交流拠点として国際産学連携サテライトオフィスを活用する	・大学技術移転協議会実施のセミナー等に参加させ、スキルアップを図っている。 ・新システムを構築し、運用を開始した。 ・今後の活用を検討中。	・大学技術移転協議会実施のセミナー等に参加させ、スキルアップを図っている。 ・新システムを構築し、運用を開始した。 ・学内周知を行い、29年度より本格運用を行う。

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
その他 （男女共 同参画）	<p>（法人評価までに改善する計画） 下記項目を目標とした男女共同参画に関する方針を策定し、行動方針を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の公平分担による過重勤務を根絶する。 ・出産および育児、介護の際にサポートを行う。 ・スタッフへの女性の積極的な採用を行う。 ・計画的な有給取得と過剰な残業を低減する。 	<p>スタッフの担当業務内容と量を把握しつつ、転出入に伴う業務の再分担を実施している。その中で育児中スタッフの時短就業へのサポートを行っている。また、新規人材として採用した3名中2名が女性となった。H28年度以降は前年度実績を集計した上で、有給休暇の消化率を評価する。</p>	<p>スタッフの担当業務内容と量を把握しつつ、転出入に伴う業務の再分担を実施している。その中で育児中スタッフの時短就業へのサポートを行っている。また、新規人材として採用した3名中2名が女性となった。H28年度以降は前年度実績を集計した上で、有給休暇の消化率を評価する。</p>
	<p>（2年間で改善する計画） 初年度で策定した男女共同参画に関する方針に従い、下記を目標とした活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の公平分担による過重勤務を根絶する。 ・出産および育児、介護の際にサポートを行う。 ・スタッフへの女性の積極的な採用を行う。 ・計画的な有給取得と過剰な残業を低減する。 	<p>業務量の増加に伴う負担の軽減のための効率化と均等化を実施する。</p>	<p>業務量の増加に伴う負担の軽減のための効率化と均等化を実施する。育児中職員の時短・シフト勤務に対応している。</p>
	<p>（次の組織評価までに改善する計画） 下記の目標の達成状況を評価し、達成率が低い項目の問題点を見いだして解決を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の公平分担による過重勤務を根絶する。 ・出産および育児、介護の際にサポートを行う。 ・スタッフへの女性の積極的な採用を行う。 ・計画的な有給取得と過剰な残業を低減する。 	<p>引き続き、達成率の低い項目の問題点の抽出を行っている。</p>	<p>引き続き、達成率の低い項目の問題点の抽出を行っている。</p>